



香港株式市場フラッシュ

高配当利回り期待の中国石油3社～サハリン2の権益が焦点か

リサーチ部 笹木和弘
Tel: 03-3666-6980
E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

2022年5月18日号(5月18日作成)

“中国3大国有石油会社の上場子会社“

中国の石油産業において、中国石油天然気集団公司(CNPC)、中国石油化工集団公司(シノペック)、および中国海洋石油総公司(CNOOC)の3大国有石油会社が「三桶油」と呼ばれ圧倒的な地位を占めている。香港市場には、CNOOC傘下の**ペトロチャイナ(857/HK)**、および**シノペック(386/HK)**、**CNOOC(883/HK)**が上場している。

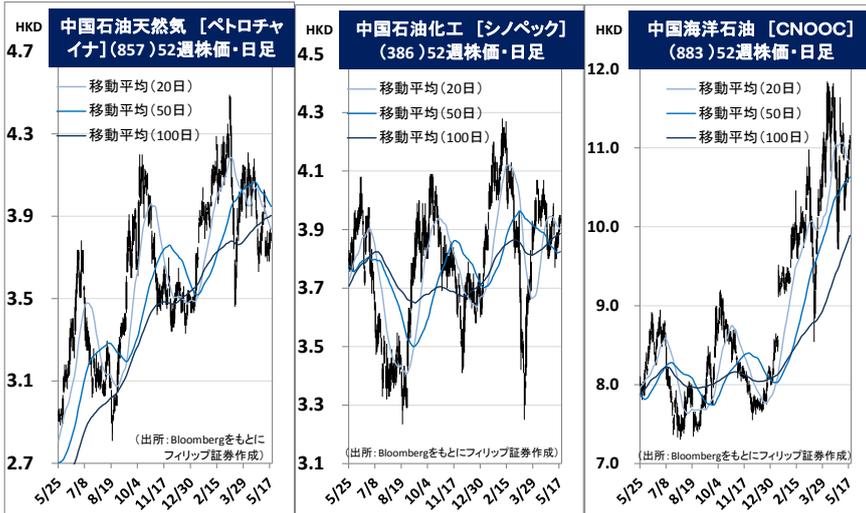
ペトロチャイナは国内屈指の大慶油田や長慶油田を保有し、原油・天然ガスの生産で国内最大であるほか、ガソリンスタンドを通じた石油製品小売りでも国内シェアで36%(20年末)を占める。世界的にも、**サウジアラムコ(サウジアラビア)**、**ペトロナス(マレーシア)**、**ペトロbras(ブラジル)**、**ガスプロム(ロシア)**、**イラン国営石油(イラン)**、**ベネズエラ国営石油(ベネズエラ)**と並んで「**新・セブンスターズ**」と呼ばれ、**米国最大手エクソンモービル**のライバル会社としても注目されている。

シノペックは原油や天然ガスの探査・生産から石油精製、小売、石化製品製造、パイプライン運営を手掛けている。川上事業に特化するCNOOCは、海底油田の探査・開発、原油および天然ガスの生産・販売を手掛け、中国近海のほかインドネシアやナイジェリアなど海外に油田権益を保有している。なお、CNOOCは今年1月、中国政府の南シナ海での強硬姿勢を支援しているとして、米商務省より事実上の禁輸リストである「**エンティティ・リスト**」に追加されている。

“中国石油3社の足元の状況および今後の見通し“

原油や天然ガス価格の上昇を受け、3社(香港上場子会社)とも2022年1-3月期の業績は好調に推移。ペトロチャイナは、売上高が前年同期比41%増、純利益も同41%増となり、シノペックは売上高が同34%増、純利益が24%増だった。CNOOCは売上高が同74%増、純利益が同2.3倍に拡大した。中国政府が3社に生産拡大を指示したことから、同期間の投資額は、ペトロチャイナが同40%増、シノペックが同10%増、CNOOCが6%増と増加。原油で7割、天然ガスで5割近くを輸入する中国にとって海外依存の抑制が急務となっている。5/16終値での22年度予想配当利回りは、ペトロチャイナが8.0%、シノペックが11.8%、CNOOCが14.8%と高水準である。

ロシアとの関係に関しては、ペトロチャイナは親会社CPNCとロシア国営ガス会社ガスプロムとの長期契約に基づき天然ガスの輸入が増加。1-4月の供給量が前年同期比約6割増となった。また、CNOOCは、同業の英シェルが撤退を表明した極東ロシアの石油・天然ガス開発事業「サハリン2」などの権益について買収に意欲を示している模様であり、シェルはCNPCやシノペックグループとも権益売却について交渉していると報じられており、同権益の行方は株価への影響も大きいとみられる。一方でCNOOCは、米国・英国・カナダにある資産が西側の新たな制裁の対象になることが懸念され、同3カ国での操業撤退を準備中とも報じられている点は注意されよう。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全87銘柄)における終値の2021年末末騰落率

前回基準日: 20220419 基準日: 20220517

順位	2021年末末騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位	
1	中国海洋石油 [CNOOC]	36.7	1
2	中国海外発展 [チャイナオーバーシーズランド&インベスト]	29.5	2
3	中国銀行(香港) [BOCホンコン]	15.7	7
4	万洲国際[WHグループ]	15.5	18
5	電能実業[パワー・アセットHldg]	12.8	17
6	長江基建集団 [チョンコン・インフラストラクチャーHDS]	10.6	16
7	長江和記実業[シーケー・ハチソンHDS]	10.2	9
8	中国石油天然気 [ペトロチャイナ]	10.1	3
9	中国移動 [チャイナモバイル]	10.0	4
10	中国石油化工 [シノペック]	8.5	14

順位	2021年末末騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位	
87	舜宇光学科技(集団)[サニーオブチカル・テクノロジー]	-54.5	87
86	ピリピリ	-53.3	86
85	小鹏汽車	-49.2	81
84	Ming Yuan Cloud Group Holdin (明源雲)	-47.6	84
83	瑞声科技[AACTテクノロジー・ホールディングス]	-44.9	83
82	比亞迪電子(国際) [BYDエレクトロニクス]	-44.5	85
81	薬明生物技術[ウーシー・バイオリジクス・ケイマン]	-41.3	76
80	小米集団[シャオミ]	-38.0	78
79	万国数拠服務 [GDSホールディングス]	-37.0	67
78	金蝶国際軟件集団 [キングディー・Int'lソフトウェア]	-36.9	80

【2022年5月の中国主要経済指標】

- 4月30日(土)
 - ・4月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.5、結果47.4
 - ・4月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回48.4、結果41.9
 - ・4月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回48.1、結果46.0
 - 5月5日(木)
 - ・4月(財新)サービス部門購買担当者景気指数(PMI): 前回42.0、結果36.2
 - 5月7日(土)
 - ・4月外貨準備高: 前回3.187兆USD、結果3.119兆USD
 - 5月9日(月)
 - ・4月貿易収支: 前回473.8億USD、結果511.2億USD
 - 5月11日(水)
 - ・4月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回+1.5%、結果+2.1%
 - ・4月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回+8.3%、結果+8.0%
 - 5月13日(金)
 - ・4月資金調達総額: 前回4.65兆元、結果9,102億元
 - ・4月新規人民元建て融資: 前回3.13兆元、結果6,454億元
 - ・4月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+9.7%、結果+10.5%
 - 5月16日(月)
 - ・4月小売売上高<前年同月比>: 前回▲3.5%、結果▲11.1%
 - ・4月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+5.0%、結果▲2.9%
 - ・4月固定資産投資<前年同月比>: 前回+9.3%、結果+6.8%
 - ・4月不動産投資<前年同月比>: 前回+0.7%、結果▲2.7%
 - ・4月住宅販売金額<前年同月比>: 前回▲25.6%、結果▲32.2%
 - 5月18日(水)
 - ・4月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.07%、結果▲0.3%
 - 5月20日(金)
 - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.70%
 - ・5年ローン・プライムレート: 前回4.60%
 - 5月27日(金)
 - ・4月工業利益<前年同月比>: 前回+12.2%
- (出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。